

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1193200183		
法人名	社会福祉法人 晃樹会		
事業所名	らんざん苑グループホーム		
所在地	埼玉県比企郡嵐山町越畑1330		
自己評価作成日	令和 5年 2月 20日	評価結果市町村受理日	令和 5年 5月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 5年 3月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の居住空間は1階にあり、災害時等の避難を迅速に行える。建物が鉄骨で出来ており、地震や火災に強い造りになっている。同法人の介護老人福祉施設の看護師と連携を取ることにより医療面でのケアが行える。見晴らしの良いテラスで景色を眺めたり、歌を唄う時間を設けることができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は毎日朝礼で唱和することで職員と共有している。日常の中で大切にしていることは「その人らしさを認める」「家族の気持ちになって利用者と接する」と言うことである。「自分の家族だったら」と常に意識し敬意を持って支援することを伝えている。就業規則や倫理規定を基に定期的に身体拘束廃止委員会を開催し、尊厳を守ることや言葉遣いについて学んでいる。指示的口調にならないように疑問形で声かけをすることや、身体にかゆみがある時に、つなぎ服を来てもらうのではなく、小まめに軟膏を塗ってかゆみ軽くするなどの工夫をして、身体拘束をしない支援に努めている。利用者の思いを把握するには、個々の生活歴や背景を知ることが大切と考えている。利用者の得意なことや苦手なことを把握し、その人に合わせたサービスを提供したり、表情から汲み取るなど、本人本位に検討をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で毎日理念を発声することで常に意識して共有している。	毎日唱和し職員と理念の共有を図っている。理念で謳っている、その人らしさを認めることや家族の気持ちになって利用者と接することを大切にしている。常に接遇を意識した支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染の影響でご家族様以外の面会は中止しているが、以前は散歩中に近隣の方と立ち話をするなど、交流があった。	コロナ禍のため、地域行事が中止になり、ボランティアの受け入れも中止している。イベントはホーム内で実施している。その中で天気の良い日は散歩に出かけ近隣から野菜をもらうなど声をかけ交流をしている。	コロナ禍で開催ができなかったが、令和5年度は開催し、家族や関係機関からの意見を吸い上げ、その意見を更なるサービスの向上に繋げることを望みます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談は随時受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナウイルスの影響で開催していないが、本来は2か月毎にご利用者、ご家族、地域包括、役場、区長、法人代表、管理者の参加で開催している。	コロナ禍の為今年度は開催をしていないが、昨年は法人本部主催で役場の区長、家族代表が参加して開催した。令和5年度は2か月毎に開催を予定している。現在は意見等は無く運営を継続している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	オレンジガーデニングプロジェクトについて取り組んでいる。	現在は役場に出向くことはあまりなく、入居相談等は電話でやり取りをしている。役所から買い物困難住民に対し、移動支援サービスについて相談がある。今後実現に向けて進めて行く方向である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間計画で研修を行っている。身体拘束はもちろん言葉での拘束や過剰な服薬も行わず、人的ケアにつとめている。	定期的に身体拘束廃止委員会を実施している。参加者は管理者をはじめ当日の職員である。就業規則や倫理規定を元に尊厳や拘束について学んでいる。特に命令や抑制するような言葉にならないよう、疑問形で声かけをするよう工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間計画で研修を行っている。職員同士で虐待の無いよう相互確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者はいないが、施設内研修等で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご本人と身元引受人に十分な説明を行い、納得の上で署名、捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は行っていないが、ご家族との懇談の機会を設け、ご意見、ご提案をいただき運営に反映させている。また、来苑時や電話でも相談を受けている。	月1回利用者の様子を写真に収め、文章を添えて家族に送り、意見を発しやすくする工夫をしているが、現在は個別の相談や体調に関しての話が多く、その都度対応をし、運営についての意見はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を設け、職員全体からの意見を集め、理念に沿った考え方で改善について話し合っている。また、随時必要なことは管理者に相談できるよう環境作りに努めている。	管理者は、現場において職員からすぐに意見を聞ける環境にある。個別面談は必要時におこなっている。内容により法人本部に繋げ経営者の考えとすり合わせをする他、即解決できることは支援に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニットに常勤職員を3名以上配置している。定期昇給、賞与、処遇改善費を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケア実践者研修及び管理者研修のほか、外部研修受講を確保している。コロナ禍中はオンライン研修が主となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍中は積極的な交流は控えているが、外部研修に出向いた際は情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談時、ご本人、ご家族との面談を行い、趣味や生活歴を聴き、生きがいや趣味を継続していけるよう話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時に困っていること、不安なことを伺い、一緒に考えるなどし、相談しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内のサービスについても説明を行い、現在の状況でご利用者にとってどのようなサービスが適切か一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除、洗濯をしたり、ときには調理補助をお願いしたりと、共同作業の楽しさを感じていただきながら過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染拡大時はガラス越しの面会、落ち着いていた時期には制限付きで居室での面会を行っていた。受診については時にはご家族にもお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	制限付きではあるが、面会も行っている。	コロナ禍の為、ガラス越しで面会を行っている。家族の来場が減っているため、家族に面会をお願いしている。年賀状や電話の支援の他、家族のみとの外出は可能とし、馴染みの継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題を見つけるお手伝いをさせてもらい、ユニット内が仲良く温かい雰囲気になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内他事業所へ移られたご本人やご家族との関係を大切に、必要があれば相談、支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から思い意向の把握に努めている。	利用者の思いや意向を把握するには、個々の生活歴や背景を知ることが大切と考えている。得意なことや苦手なことを利用者に合わせて提供したり、表情から汲み取る等し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの経過は、ご本人、ご家族、ケアマネから詳しく聴き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングにて心身状態や新たなニーズ等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員、主治医の連絡、相談により現状に即したケアプランを作成している。	入居時に家族や本人の希望、及び自宅で過ごしていた時の様子を確認している。「毎日新聞を読む」や「朝起きたら身だしなみを整える」等、個々の情報を活かして、介護計画を作成し支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットでの個人記録を基本とし、気づきや改善点については連絡ノートや会議録にて全員で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれのニーズ、時々々のニーズに合わせて、既存のサービスに捉われず、支援内容を柔軟に考え実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容、訪問歯科を活用している。コロナウイルスが落ち着いたら傾聴ボランティアの再開も考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による訪問診療あり。受診はご家族と相談、協力しながら支援している。	医療は協力医療機関の訪問診療か以前からのかかりつけ医かを選択できる。緊急時は管理者や法人の看護師が対応しており、状況に応じた判断、指示を出している。健康管理の記録はタブレットでおこなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の気づき、変化を看護職に伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院スタッフと連絡をとって状況確認をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末をどう望んでいるかを本人、家族と話し合っている。その後も状態によりその都度意思確認を行っている。	終末期の対応については、入院、緩和治療、延命などの希望を確認している。重度化の説明は法人医師である院長、看護師、管理者が連携し管理者から家族に説明している。現在、看取りはないが、看取りの希望がある場合には応じることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、連絡体制、AEDの使用方法について訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練にて、初期消火訓練、通報訓練、避難訓練を行っている。	年2回、避難訓練を実施している。利用者を避難誘導し、消防署からは「迅速な避難ができた」とコメントをもらっている。年2回のうちどちらかに全職員が参加し、避難方法を身につけるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに十分配慮した声掛けや対応を心掛けている。本人の情報は事務所内でのみ使用し、ご利用者の共用スペースでは必要以外は口にしない。	日々の記録はタブレット入力する他、重要書類等は鍵付き書庫で管理し、情報が漏れないようにしている。研修では接遇や身体拘束、虐待の内容の中で尊厳やプライバシーについて学び、支援に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が意思や希望を話しやすい環境作りに努めている。重度の認知症のご利用者にも、自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に左右されることの無いよう、ご利用者の意思や気分による決定を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はなるべくご家族に用意していただき、その人らしいおしゃれができるようにしている。行事の時などお化粧品のお手伝いをする事で、喜んでいただける。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手料理を召し上がっていただき、好評をいただいている。季節ごとの行事食も楽しんでいただけている。食器拭きやテーブル拭きをご利用者にお手伝いしていただいている。	利用者はテーブル拭きやおしぼり巻きを手伝っている。メニューは決まっており季節の食材で、菜の花や筍等が盛り込まれている。行事食のちらし寿司、ナポリタン、サンドイッチは人気メニューである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を一日1000mlを目標にしている。食事形態、食事量を個別に設定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯みがきをしている。口腔内に異常があった場合には、訪問歯科を受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をタブレットに入力してデータ化し、最適と思われる時間に誘導を行っている。プライバシーには十分注意し誘導を行っている。	排泄チェック表を付け、個々に声をかける、動きだしたら声をかける等の支援をしている。歩いてトイレに行ける人は自力で行ってもらい、今できる能力を維持できるように見守りし、自立に向けた支援をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と体操でできる限り自然排便できるよう支援している。主治医やご家族に相談の上、ごぼう茶やせんな茶、イージーファイバーや下剤等も必要に応じて用いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としている。希望に応じて変更可能。	基本は週2回の入浴だが、曜日の変更や追加も柔軟に対応している。その日の最初の利用者が入浴剤を選ぶことができる。「らんざん温泉に行きましょう」と声かけをし、気持ち良く入ってもらう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まっているが、本人の意思を尊重し起きていたい方、余暇活動を希望する方には自由に過ごしてもらっている。本人の眠気や浮腫等を考慮し、昼寝の時間も設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員による3重のチェックにより誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能や生活歴を活かした趣味を楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見やドライブに出かけている。	天気の良い日は利用者全員で桜、菜の花、ラベンダーを見に、ドライブに出かけている。家族との外出は自宅に行ったり、通院は可能だが外食等、密になることは禁止としている。コロナ禍で制限はあるが、個人の希望をできる限り叶えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所でおこづかいをお預かりし、医療費、おむつ代、ご本人が購入を希望する物に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話や手紙は自由にできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事ごとの飾りつけを職員と伴に行い、生活に彩りを加えている。	毎月、壁面に季節の花や果物等を利用者と一緒に作成し飾っている。利用者からは「良いできね」と声があがる。室温は21度から22度に設定しているが、利用者に確認しながら調整をしている。消毒、掃除を一緒にし、清潔に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにてソファでくつろいだり、テラスで一人の時間を設けたりとご自由に過ごしていただけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員とともに掃除を行っている。テレビ、ラジオ、仏壇等、自由に持ち込んでいただいている。	利用者は持ち物一覧を参考に馴染みの物を持参している。シーツ、布団・枕カバーはホームの備品で、週1回交換し清潔を保っている。ベッドは乗り降りしやすいよう配置し、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室や共有スペースの掃除、調理補助等、出来る事を行っていただき「自立した生活」を意識してもらえるようにしている。		